

# 平成29年度 生活・自立支援キャンプ事業 子ども生き生き体験学習①

- 1 趣 旨 母子生活支援施設や児童養護施設との連携を深め、様々な体験活動をとおして、子供たちの豊かな情操を養い、自立を支援する。
- 2 期 日 平成29年7月24日（月）～25日（火） 1泊2日
- 3 対 象 者 母子生活支援施設「千草寮」に入所している子供  
児童養護施設「大隅学舎」に入所している子供
- 4 募集定員 無し
- 5 参 加 者 11人（小学生8人 施設指導者3人）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員



## 7 日程と主な活動

《1日目》 7月24日 (月)	9:55	10:40	11:40	12:00	13:00	16:30	20:00	21:00
	《生活》 垂水フェリー 乗船(千草寮)	自然の家 へ移動 準備	出会いの つどい オリエン テーション	屋 食 (レストラン)	《体験》 カヌー体験 海 遊 び	《生活》 夕食作り 夕 食 後片付け 入 浴	《体験》 星空観測 自主学習	一日の まとめ 就 寝

《2日目》 7月25日 (火)	6:30	9:15	9:45	12:00	12:45	13:20	14:05
	起 床	《生活》 つどい 朝 食 (レストラン)	鹿屋市漁協 に移動	《体験》 鹿屋市漁協 カンパチ養殖場 漁船乗船体験 えさやり体験	屋 食 (漁協食堂)	アンケート 振り返り 別れのつどい	垂水港に移動

## 8 事業運営上の配慮

- (1) 鹿児島市の母子生活支援施設「千草寮」、鹿屋市の児童養護施設「大隅学舎」と連携して、施設で生活する子供を対象に体験活動を行う中で、子供たちのあいさつや返事などの基本的な生活習慣の確立や自立心の育成に貢献できるよう心がけた。
- (2) カヌー体験や漁業体験活動など、未経験の活動を行う中で、子供たち自身が達成感や満足感を味わうことができるよう工夫した。



## 9 参加者の感想

- 最初は、楽しくなかったけど、慣れてきたら分かった。ふれあっていく間に友達とどんどん仲良くなっていった。(小学生)



- 普段経験できないことを子供たちと楽しむことができました。今回は、2施設の合同キャンプでしたが、子供たち同士でお互い声をかけ合ったり、気遣う場面も見られ、少しずつですが、仲良くなっている様子が見られ良かったです。(千草寮指導者)
- カヌーや調理活動など、日頃経験したことのないものばかりで、笑顔いっぱいの姿を見ることができ、とてもうれしかったです。けがなく無事に終わることができ良かったです。(大隅学舎指導者)



## 10 成 果

- 施設の職員と事前打合せ等を入念に行い、本事業の目的と内容について共通理解を図ったことから、子供たちの実態を考慮した活動を実施することができた。
- 今回参加された施設を含め他施設に対し、子供たちの基本的な生活習慣の確立や自立心の育成のために体験活動の必要性を引き続き呼びかけていく。

